

異なる視点 八雲が手本

小泉八雲は松江とのゆかりが大変深い人物ですが、私が生まれ育った富山県の富山大学付属図書館には、その蔵書が「ヘルン文庫」として保存されています。創作の源泉となった蔵書を散逸させまいと、旧制富山高校が小泉家から一括して譲り受けたこのことです。その縁もあり、富山県でも八雲は人気です。

八雲は多くの著作を通じて欧米



弁護士 大野 遼太さん



に日本文化を紹介しました。そこには、日本人とは異なる視点ゆえに発見できた日本の姿が描かれているように思います。だからこそ私たちも、はっとさせられるのではないのでしょうか。

地中海に浮かぶレフカダ島で生まれ、イギリスやフランスで教育を受けた後、渡米してジャーナリストとして活躍。来日して教鞭をとり、日本で家庭を持った。八雲の視点は、そういう様々な経験の中

で、培われたのかもしれない。

弁護士として様々な紛争に向き合う際、依頼者の方の目線で見えているのかをまず受け止めます。そこに法律家の視点を持ち込んで分析し、紛争解決のポイントを発見していくこととなります。

この時、法律の専門書から得た知識だけでなく、仕事とは無関係の経験から、思わぬ解決の端緒に気付くことも少なくありません。相手方の視点に立つことも極めて重要です。

まだまだ未熟ではありますが、自分自身、様々な経験を重ねて鋭い視点を培えるよう努力しつつ、また、自分とは違う視点にも耳を傾けることで、依頼者の方にとっけて最もよい解決方法を発見できるよう、取り組んでいきたいと思っています。(岡崎法律事務所)